

わかるともっとおもしろい！「美術のミカタ」の一考察

三 榎 正 典*

(2022年12月22日 受理)

A Study of “It’s More Interesting When You Understand! How to View Art”

Masanori MIMASU*

I have seen it! I know! ... a famous painting that is supposed to be. If you change your perspective, you can still find interesting things you didn't know. From 2020, we will use SNS as the theme of the works owned by each museum and the history of the opening of the museum, mainly in Hiroshima Prefecture. It introduces a new perspective that will be the entrance to This paper presents a new perspective on the famous works of art introduced there.

Keywords: How to View Art 美術の見方, New perspective 新しい見方

はじめに

みたことある！知っている！…つもりになっている有名絵画。視点を変えると知らなかった面白さがまだまだみつかると。2020年よりSNS「JA 共済広島（ひろしまウィンドウ～美術のミカタ）」において広島県内の美術館や博物館を中心に各館が所蔵する作品や開館まで至った経緯を題材とし「5W1H」などの一般的な美術作品の視点を変えながら美術作品をみる楽しさの入り口となるであろう新しい視点を紹介している。本稿では、そこで紹介した有名美術作品の新たな「美術のミカタ」を示したものである。

1. ひろしま美術館 2020.5.29



図1 ひろしま美術館

* 広島女学院大学人間生活学部児童教育学科教授

ひろしま美術館（図1）は1978年、広島銀行創設100周年の記念事業として造られた美術館。広島市の中心部に位置するここには、印象派の作品を中心に約300点のコレクションが収蔵され、その良質な作品は国内外でも高い評価を得ています。常設展示される作品たちは私たちを近代西洋美術の旅へ誘ってくれます。



図2 ビンセント・ファン・ゴッホ「ドービニーの庭」

この作品、実は…

この絵にいたはずの黒猫の行方は？

中でも、私の目を引くのが、このビンセント・ファン・ゴッホの「ドービニーの庭」（図2）。ゴッホがこの世を去る2週間前に描かれたとされる、最晩年の作品です。まるで絵具チューブから直接描いたような荒々しさを持ちながらも、穏やかで優しい美しさを醸し出しています。ゴッホが尊敬する画家、ドービニーを敬愛する気持ちが溢れているようにも感じます。

実はゴッホ、もう1枚同じ「ドービニーの庭」を描いており、2枚の絵にはいずれも画面左下には、黒猫が描かれている…はずですが、ひろしま美術館の「ドービニーの庭」にはその黒猫がいない！

2008年に調査が行われ、もう1枚の作品と同じく、最初は黒猫が描かれていて、その後、何者かによって消されたことが判明！事実はこちらまで、真実はいまだに誰にもわかっていません。誰が何のために…？実にミステリアスな要素をこの絵は持ち合わせているようです。

黒猫はどこに？…ひろしま美術館の答えはこれ！



図3 エントランス



図4 レストラン

何と、エントランスやレストランなど、美術館のあちこちで、絵から消された黒猫が見つかります。粋な演出ですね。そんな視点から絵を見ると楽しさはもっと広がり、自分だけの感じ方も新たに発見できるものだを教えてくれます。



図5 オーギュスト・ルノワールの「麦わら帽子の女」

この作品、実は…

購入第一号の絵にはどんな思いが…？

もう1点、おすすめしたい作品があります。

ご存知、オーギュスト・ルノワールの「麦わら帽子の女」。これは、ひろしま美術館の初代館長、伊藤勲雄氏が一番最初に購入した記念すべき作品です。

「ルノワールはこの絵を描いた頃、リウマチを患いほとんど手が動かなかった。でもその時期にとっても温かみのある作品を多く描いている。苦しかった晩年に、きっとこの作品はひろしまの原爆で苦しい思いをした人々の心を癒してくれると思って、最初に購入したのであろう」と古谷可由学芸部長（ひろしま美術館）は話してくれました。

ひろしま美術館のテーマ「愛とやすらぎのために」はこの作品からスタートし、その後所蔵された作品と共に今日まで私たちの心を癒し続けてくれているのです。

さあ、いかがでしょうか？

もう一度、ひろしま美術館の作品を見に出かけてみませんか？

美しいものはあなたの心をきっと動かしてくれるでしょう！¹⁾

ひろしま美術館

〒730-0011 広島市中区基町3-2（中央公園内）

<https://www.hiroshima-museum.jp/>

2. 奥田元宋・小由女美術館 2020.8.31

「奥田元宋・小由女美術館」（図6）は戦後を代表する日本画家奥田元宋と、その妻で人形作家の奥田小由女の作品を常設展示する美術館です。2006年、広島県北部のなだらかな山々に囲まれた三次市にオープンしました。奥田元宋の初期から最晩年に至る傑作やスケッチなど、およそ200点を所蔵しています。今回は数ある奥田元宋作品の中から、ポイントとなる作品をみて行きましょう。



図6 奥田元宋・小由女美術館

鑑賞ポイント その1

「元宋の赤」は圧巻！でも

「緑」にも惹きつけられる

皆さんも耳にしたことがあるかもしれません。奥田元宋の作品はしばしば「元宋の赤」と評されます。彼の代表的な作品に見られる、赤を用いた紅葉と燃えたぎる命の表現はまさに圧巻です。その一方、私は「緑」にも惹かれるのです。

元宋の作品にはほとんど人物は登場しませんが、その分、作品の中には自然がしっかり描きこまれています。緑に注目することで、元宋の静かで素直な自然を見つめる姿勢を感じることができると思います。

とくにこちらの2つの作品、「たそがれ近く」は、夕暮れの霧がかかった静かな浅黄緑が、「立夏」は5月の風薫るさわやかな深緑がそれぞれ情緒豊かな感性で描かれていて、注目すべき「緑」の作品です。

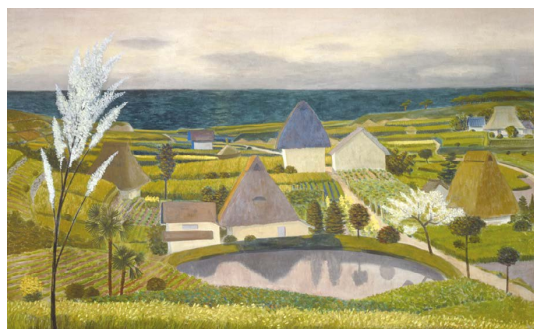


図7 「たそがれ近く」1951

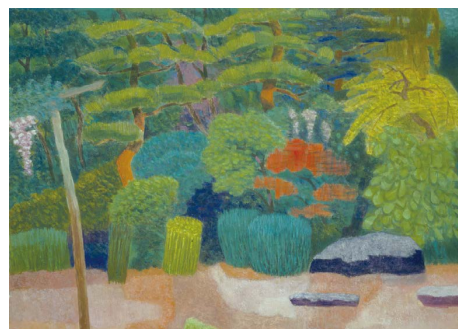


図8 「立夏」1955

鑑賞ポイント その2

しっかりと近づいて元宋の
「筆跡」を見てみよう

館内のもっとも重要な空間に2点で対となる作品、「白嶂」と「紅嶺」が展示されています。大きな展示空間に展示されているのは、横幅約6mの大作2点のみ。元宋の魅力が凝縮された、実に贅沢な空間と言えるでしょう。

少し離れて作品と空間全体を鑑賞したら、今度は逆にしっかりと近づいて白や赤の筆跡を見てみると、面白いものが見えてきます。

離れてみると静かに見えた2つの作品は、近づいていくにつれ、筆跡の激しい動きに気づきます。自然が見せてくれている「厳しさ」や「怖さ」、「荒々しさ」がその筆跡から感じ取れるはずです。

元宋は生前、「目で見えないのなら、こころの目で描けば良い」と語っています。なるほど、この2枚の作品は実際に目で見えたものだけでない、心象的な「命の躍動」も描かれているのかもしれません。



図9 「白嶂」1987



図10 「紅嶺」1987

鑑賞ポイント その3

元宋の描いた「月」に注目してみよう



図11 奥田元宋・小由女美術館 ロービーからの月溪

そして何と素敵なことに、満月の夜は21時まで開館しており、その荘厳な自然の風景を味わうことが出来るのです。茶室「待月庵」でお点前頂くと、至福のひと時は一層深まることでしょう。

三次の豊かな自然に抱かれた「奥田元宋・小由女美術館」で「素直な目で自然を見つめる」ひと時を、ぜひ体感してみてください²⁾。

奥田元宋・小由女美術館

〒728-0023 広島県三次市東酒屋町10453番地 6

<http://www.genso-sayume.jp/>

引用文献・図版

- 1) JA 共済広島「かわら版」ひろしまウィンドウ 『美術のミカタ～ひろしま美術館』
<https://jakyosai-hiroshima.jp/hiroshimawindow/art/2738/>
- 2) JA 共済広島「かわら版」ひろしまウィンドウ 『美術のミカタ～奥田元宋・小由女美術館』
<https://jakyosai-hiroshima.jp/hiroshimawindow/art/1410/>